

Academic Listening & Speaking		秋	週2回	2単位
担当者: E. D. オズバーン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. Content - This course is designed to provide students with opportunities to learn the vocabulary and the Intermediate level English listening and speaking skills that will serve as the foundation for further preparatory work as they get ready to study abroad in a university environment. The course content focuses on themes related to life in society, with particular interest in the comparison of American and Japanese culture.</p> <p>2. Role in the Curriculum - This is an elective course that is part of the European-American Culture Department's "English Training Sequence" (英語強化コース).</p> <p>3. Learning Objective - The primary objective is help students reach the Intermediate to Intermediate High level of academic English listening and speaking in preparation for tests like the TOEFL and for studying overseas.</p>				
<b>評価方法</b>				
Grades will be based upon class attendance (10%), participation in discussions (20%), in-class presentations (40%), and two exams (15% each = 30%).				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する Kim Sanabria 『Academic Listening Encounters: Life in Society』 Cambridge University Press				

College Reading Skills		春	週2回	2単位
担当者: メイス みよ子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容: 正規留学を目指す学生のためのリーディング演習コース。アカデミックトピックを取り上げたテキストを使用しながら、留学に必要な読解力、アカデミックボキャブラリー、速読力の向上を目指すと共に、自然科学などの知識の習得も目標とする。TOEFLで出題される長文をよく読解できるよう、様々なスタディスキルの練習、ボキャブラリービルディング、ショートライティングも行う。その他、インターネット、雑誌、新聞の時事英語など多彩なトピックについて読みながら、ディスカッション、まとめなどの作業を行い、留学に必要な基礎英語力を養う。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ: 欧米文化専門科目の選択科目である。</p> <p>3. 学びの目標と意義: 欧米の大学では、膨大な量のリーディングが求められる。様々なアカデミックトピックについて、リーディング演習を行い、留学に必要な読解力、語彙力、スタディスキルを身につけることを目標とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席・授業の作業 (20%)、小テスト (30%)、宿題 (20%)、期末発表 (30%)				
<b>教科書</b>				
Wharton, Jennifer 『Academic encounters : the Natural World』 Cambridge University Press				

College Writing Skills		秋	週2回	2単位
担当者: K. O. アンダスン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容: この授業では英語論文を書くために必要な技能を修得する。段落の組み立て方、文章のまとめ方、時間的順位、原因と結果、比較と対象などを論文中にどのように用いまとめ、立証的な論文を作成するかを学ぶ。また他人の文章、考えの盗用の危険性を強調し、MLA Handbook for Writers of Research Paper, Sixth Edition を用い研究方法、出典文献の用い方なども身につける。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ: 海外で学ぶこと、英語論文を書くことを計画している学生対象。注) TOEFL換算スコア380点以上の学生対象</p> <p>3. 学びの意義と目標: 自身の考えをまとめ調査・研究し理論的な論文の書き方を学び、将来に役立てる。</p>				
<b>評価方法</b>				
10% 出席 30% 小テスト結果 30% 宿題 (レポート) 提出結果 30% 期末試験結果				
<b>教科書</b>				
Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』 Pearson/Longman 2006				

ECA (Business) A		春	週1回	1単位
担当者: チェンバレン 暁子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 国際社会のグローバル化に伴い、ビジネスにおいても英語はコミュニケーションの手段としてその必要性はますます高まってきている。本授業においては、将来仕事で英語が必要な場合に役立つ、実践的なビジネス英語の基礎やビジネス・マナーを学んでいく。</p> <p>2. 基本的な英文法とPCの基本操作をマスターしている学生の履修が望ましい。</p> <p>3. 授業では英語での仕事の探し方、英文履歴書の書き方、ビジネスE-mail、レターの書き方、電話の受け答えやメモの取り方などを学ぶ。また、様々なビジネス・シチュエーションでの会話の練習も行う。学期末には、働いてみたい会社のリサーチをインターネットで行い、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行い、英語プレゼンテーションの基本を学ぶ。</p>				
<b>評価方法</b>				
試験 40%、プレゼンテーション 20% 小テスト10% 出席 20%、授業参加度 10%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

A  
I  
Z

ECA (Business) B		秋	週1回	1単位
担当者：チェンバレン 暁子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 国際社会のグローバル化に伴い、ビジネスにおいても英語はコミュニケーションの手段としてその必要性はますます高まってきている。本授業においては、将来仕事で英語が必要な場合に役立つ、実践的なビジネス英語の基礎やビジネス・マナーを学んでいく。</p> <p>2. 基本的な英文法とPCの基本操作をマスターしている学生の履修が望ましい。</p> <p>3. 授業では、様々なビジネス・シチュエーションでの会話や、商品の取引に関する英語を中心に学ぶ。学期後半は、関心のある商品がどのように作られ、販売されていったかをインターネットなどでリサーチを行い、パワーポイントを用いた使プレゼンテーションを行う。</p>				
<b>評価方法</b>				
試験 40%、プレゼンテーション20%、小テスト10%、出席 20%、授業参加度 10%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

ECA (Cinema) I		春	秋	週1回	1単位
担当者：鈴木 仁/チェンバレン 暁子/能町 和子/メイス みよ子/島田 洋子/中川 英幸					
<b>講義の目標及び概要</b>					
<p>1. 授業の概要 欧米の映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、文化背景についても話し合う。ロールプレイを通し発音練習も行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目または選択科目となる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。</p>					
<b>評価方法</b>					
課題 (含 小テスト、レポート、発表、出席、態度) 50%, 学期末テスト50%					
<b>教科書</b>					
『School of Rock』スクリーンプレイ					

ECA (Cinema) I [Super A]		春	週1回	1単位
担当者：長崎 睦子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 本科目は基本的に英語のみで行われる。映画を題材にその内容や背景にある文化・社会について学ぶという内容中心の授業の中で、英語力をつけることを目指す。日常生活で使用される様々な表現に触れ、会話練習やロール・プレイを通して使用することで、聞く力と話す力を伸ばす。また課題のテーマについて調べ、レポートを書き、英語でプレゼンテーションを行う。授業内外で自分のペースで自由に取り組みめるe-learningも行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 (1)映画を通して日常生活で使われている英語にたくさん触れることにより、リスニング力を高める。(2)会話練習、ロールプレイ、ディスカッションを通して、コミュニケーション能力を養う。(3)映画の背景にある英語圏の文化についての知識や理解を深める。(4)プレゼンテーションのテーマについてリサーチし、英語で原稿を書き、口頭発表を行う。(5) e-learningを通して授業以外でも多量の英語に触れ、英語力を高めると同時に学習習慣を身につける。</p>				
<b>評価方法</b>				
平常点 (出席と授業への貢献度) (20%), 課題 (プレゼンテーション) (30%), 学期末テスト (30%), e-learning (20%)*評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業にて説明するので確認すること。				
<b>教科書</b>				
『スクール・オブ・ロック』スクリーンプレイ				

ECA (Cinema) II		春	秋	週1回	1単位
担当者：鈴木 仁/チェンバレン 暁子/能町 和子/島田 洋子/中川 英幸					
<b>講義の目標及び概要</b>					
<p>1. 授業の概要 欧米の映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、文化背景についても話し合う。LL機能を用い発音練習も行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 学科により英語必修科目、または英語選択科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。</p>					
<b>評価方法</b>					
課題 (含 小テスト、レポート、発表、出席、態度) 50%, 学期末テスト50%					
<b>教科書</b>					
権原寛基・W. Nixon 『About A Boy』スクリーンプレイ					

ECA (Cinema) II [Super A]		秋	週1回	1単位
担当者：中村 香代子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 この授業ではECA (Cinema) I に引き続き、映画を通して文化や英語表現などを学んでいきます。映画のシーンを使ったリスニング練習や、内容に関するディスカッションを行い、理解を深めます。また映画のトピックに関するエッセイを書いたり、各自で調べた結果を発表するプレゼンテーションにも挑戦します。さらにe-learningにより、TOEIC 準備に役立つリーディング、リスニング、文法も学びます。				
2. カリキュラム上の位置づけ 受講にはECA (Cinema) I 修了が前提となります。				
3. 学びの意義と目標 映画を通して異文化理解を深めると同時に、英語表現の習得と発表力向上を目指すクラスです。				
<b>評価方法</b>				
出席 20% 授業参加 20% プレゼンテーション 20% 試験 20% e-learning 20%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

ECA (Cinema) III		春	秋	週1回	1単位
担当者：メイス みよ子/島田 洋子					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1. 内容 この授業では数本の映画を通して、英語圏の文化や社会情勢などについて学ぶ。また、映画からだけではなく、インターネットを利用して映画のテーマに関するリサーチを行い、自分の意見を組み立てる。そして、ディスカッションを通してクラスメートとお互いの感想や意見を交換したり、プレゼンテーション、レポートを通して、自分の考えを発表したりする。さらに、映画のシーンを題材にしたリスニング練習や映画についての読解練習も取り入れる。					
2. カリキュラム上の位置づけ 選択科目であるが受講条件としてECA (Cinema) II が前提科目となっている。					
3. 学びの意義と目標 映画を通して異文化に対する理解を深める。またリサーチした内容をまとめ、自分の考えをしっかりとまとめ発表できることを目標とする。					
<b>評価方法</b>					
平常点50点 (出席状況、宿題、テスト、授業の作業、参加態度) 課題点50点 (レポート)					
<b>教科書</b>					
授業の中で指示する					

ECA (Communication) A [Level A]		春	秋	週2回	2単位
担当者：C. ギブソン					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。					
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目					
3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。					
<b>評価方法</b>					
1. 出席状況 20% 2. 授業態度・参加 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 30%					
<b>教科書</b>					
A. Graham-Marr 『Communication Spotlight Pre-Intermediate』 ABAX					

ECA (Communication) A [Level B]		春	秋	週2回	2単位
担当者：J. バーン/L. アーノルド					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。					
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目					
3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。					
<b>評価方法</b>					
1. 出席状況 20% 2. 授業態度・参加 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 30%					
<b>教科書</b>					
A. Graham-Marr 『Communication Spotlight, Low Intermediate』 ABAX Johannsen, Milner, Chase 『World English』 Cengage Learning					

ECA (Communication) B [Level A] 春 秋 週2回 2単位	
担当者：C. ギブソン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>1. 出席状況 20%</p> <p>2. 授業態度・参加 20%</p> <p>3. スピーキングテスト (2回) 30%</p> <p>4. 期末試験 30%</p>	
<b>教科書</b>	
<p>A. Graham-Marr 『Communication Spotlight Pre-Intermediate』 ABAX Johannsen, Milner, Chase 『World English』 Cengage Learning</p>	

ECA (Communication) B [Level B] 春 秋 週2回 2単位	
担当者：J. バーン/L. アーノルド	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>1. 出席状況 20%</p> <p>2. 授業態度・参加 20%</p> <p>3. スピーキングテスト (2回) 30%</p> <p>4. 期末試験 30%</p>	
<b>教科書</b>	
<p>授業の中で指示する Graham-Marr 『Communication Spotlight, Low Intermediate』 ABAX Johannsen, Milner, Chase 『World English』 Cengage Learning</p>	

ECA (Culture) A [Level A] 春 週1回 1単位	
担当者：川田 牧人/チェンバレン 暁子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>アメリカ人にとって馴染み深い食べ物や人物、習慣などをトピックスとして扱ったテキストの講義を通し、読解力の養成を行う。また授業の中では、映像・音声も用いてリスニング力の養成も行う。学期後半には関心のあったテーマを各自が選び、インターネットなどを用いてリサーチを行い、プレゼンテーションを行う。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>試験&amp;小テスト 50%、プレゼンテーション 20%、出席 20%、授業態度 10%、</p>	
<b>教科書</b>	
<p>Milanda Broukal, Peter Murphy 『ALL ABOUT THE USA 3』 Pearson Longman</p>	

ECA (Culture) A [Level B] 春 週1回 1単位	
担当者：島田 洋子/中川 英幸	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 この授業では様々なトピックについて書かれた読み物を通して米国文化を学習していく。異文化理解だけでなく、リーディングスキルを教えることで読解力の向上に特に力を入れたい。読み物には多岐にわたる練習問題が用意されているため、語彙力、文法力などの能力向上も図る。異文化理解を深める補助教材として、インターネットやドキュメンタリー映像、映画なども有効活用する。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の英語選択科目で特に異文化理解やリーディングの授業を効果的に学習する目的の他、様々な資格英語試験の読解問題の対策にもなる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 英語の読解力、語彙力、文法力の向上を目指すと共に、異文化理解を深めることで総合的なコミュニケーション能力の向上を目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>平常点 (50%) (中間テスト、宿題、授業参加を含む) 学期末試験/レポート (50%)</p>	
<b>教科書</b>	
<p>Milada Broukal 『ALL ABOUT THE USA 1 A Cultural Reader Second Edition』 PEARSON Longman</p>	

ECA (Culture) B [Level A]		秋	週1回	1単位
担当者：能町 和子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 アメリカの文化、歴史、風土などを紹介するテキストを読む。リーディング中心ですが、テキストの内容に関連した事柄を考え、英語で意見を交換したり、クラス内で発表したり、in-putからout-putへつなげていく授業にしています。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ テキストの英語は平易なものですが、基礎にとどまらず応用をつけるものとなります。</p> <p>3. 学びの意義と目標 英語という言葉をも、その言葉が使われている国、文化に関する記述を読むことで、語の感覚を感じられればと考えています。また、文化に興味のある者にとっては、知識を増やし深めるなかで語彙力の強化につながると思います。また、英語という枠にとらわれず、自分の意見や思いを発表することができるようにしていく。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業態度、宿題、通常授業で2、3回行う発表、小テスト：50% 中間試験、期末試験：50%				
<b>教科書</b>				
Broukal, Milada 『All About the USA 3: A Cultural reader, Third Edition』 Pearson Education, Inc.				

ECA (Culture) B [Level B]		秋	週1回	1単位
担当者：島田 洋子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 この授業では様々なトピックについて書かれた読み物を通してさらに深く米国文化を学習していく。異文化理解だけでなく、リーディングスキルを教えることで読解力の向上に特に力を入れたい。読み物には多岐にわたる練習問題が用意されているため、語彙力、文法力などの能力向上も図る。異文化理解を深める補助教材として、インターネットやドキュメンタリー映像、映画なども有効活用する。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の英語選択科目で、特に異文化理解やリーディングの授業を効果的に学習する目的の他、様々な資格英語試験の読解問題の対策にもなる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 英語の読解力、語彙力、文法力の向上を目指すと共に、異文化理解を深めることで総合的なコミュニケーション能力の向上を目標とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
平常点 (50%) (中間テスト、宿題、授業参加を含む) 学期末試験/レポート (50%)				
<b>教科書</b>				
Milada Broukal 『ALL ABOUT THE USA 1 A Cultural Reader Second Edition』 PEARSON Longman				

ECA (English Through Songs) A		春	秋	週1回	1単位
担当者：C. ギブソン					
<b>講義の目標及び概要</b>					
<p>この科目は、現代ポップスを使用してリスニングとスピーキングのスキルを高めることに焦点を当てる。主な目的は、楽しくリラックスした雰囲気の中で英語の歌を紹介しながら英語上達に必要なスキルを補強していくことである。歌詞やさまざまなジャンルの音楽についてのディスカッションや興味ある音楽の短いプレゼンテーションを多くこなすことによって、スピーキング能力を向上させる。リスニングは歌詞の要点、単語の聞き取り、略式の発音を中心に行う。ミュージシャンの経歴、ポピュラー音楽の歴史、歌詞の訳などの課題が出される。学期末までには、人前で英語を話すことに自信を持ち、現代ポップスとミュージシャンに対する関心が高まり、現代西洋音楽の歴史を理解することができる。</p>					
<b>評価方法</b>					
1. Attendance and participation 50% 2. Presentation 25% 3. Quizzes 25%					
<b>教科書</b>					
プリントを配布する					

ECA (English Through Songs) B		秋	週1回	1単位
担当者：K. ヒル				
<b>講義の目標及び概要</b>				
履修条件 (ECA (Speaking I, II)履修済み TOEFL 300点以上)				
<p>1. 内容 現代ポップスを使用してリスニングとスピーキングのスキルを高めることに焦点を当てる。歌詞やさまざまなジャンルの音楽についてのディスカッションを多くこなすことによって、スピーキング能力を向上させる。リスニングは歌詞の要点、単語の聞き取り、略式の発音を中心に行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 楽しくリラックスした雰囲気の中で英語の歌を紹介しながら英語上達に必要なスキルを補強していくことである。</p>				
<b>評価方法</b>				
1. Attendance and participation 20% 2. Assignment 20% 3. Discussion 30% 4. Final Test 30%				
<b>教科書</b>				
English Through Songs 『Kent Hill』 Eigo Press				

A  
I  
Z

ECA (English Through Songs) B		春	週1回	1単位
担当者：C. ギブソン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
この科目は、現代ポップスを使用してリスニングとスピーキングのスキルを高めることに焦点を当てる。主な目的は、楽しくリラックスした雰囲気の中で英語の歌を紹介しながら英語上達に必要なスキルを補強していくことである。歌詞やさまざまなジャンルの音楽についてのディスカッションや興味ある音楽の短いプレゼンテーションを多くこなすことによって、スピーキング能力を向上させる。リスニングは歌詞の要点、単語の聞き取り、略式の発音を中心に行う。ミュージシャンの経歴、ポピュラー音楽の歴史、歌詞の訳などの課題が出される。学期末までには、人前で英語を話すことに自信を持ち、現代ポップスとミュージシャンに対する関心が高まり、現代西洋音楽の歴史を理解することができる。				
<b>評価方法</b>				
1. Attendance and participation 50%				
2. Presentation 25%				
3. Quizzes 25%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

ECA (Pleasure Reading) A		春	週1回	1単位
担当者：能町 和子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1、内容 自分のレベルに合った英語の本をなるべくたくさん、できるだけコンスタントに読み続ける。自分の読んだ本をみんなに紹介したり、本の内容、感想を英語句で表現する練習を行う。				
2、カリキュラム上の位置づけ 基礎英語力を高めるクラス。				
3、学びの意義と目標 自分で興味を持ってそうな本を選ぶことによって、1ページでも多く読みこなす。なるべく毎日、なるべく多く読むことによって英語の経験値を上げ、英語の感覚を身につける。				
<b>評価方法</b>				
毎時間、日々の読書記録を提出（＝取り組み評価）20%				
意見交換、感想などを授業中に書いて提出 20%				
出席 20%				
プレゼンテーション 40%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

ECA (Pleasure Reading) B		秋	週1回	1単位
担当者：印田 佐知子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
〈内容〉 自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）していく授業である。学生は、Graded Readersというレベル別に分かれたさまざまなジャンルの本の中から、各自の興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で学期を通してできるだけ多くの本を読み進めていく。その間、読んだ本の記録をつけ、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をアクティビティを通じて行なう。学期末には、読んだ本について英語でポスター・プレゼンテーションをする。				
〈カリキュラム上の位置づけ〉 基礎科目群の英語選択科目である。				
〈学びの意義と目標〉 英語で読む習慣を身につけ、沢山読むことで自然に英語力を伸ばし、自分の好きな本を自分のペースで読み進めることで英語で読むことの楽しさ（pleasure of reading）を知る。				
<b>評価方法</b>				
出席とアクティビティへの参加、読書日誌、読書量、課題や発表から総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

ECA (Presentation English)		春	週2回	2単位
担当者：K. O. アンダスン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容：プレゼンテーションとは、「個人またはグループが特定のテーマを紹介・説明するためにする短い話」と定義されている。学生はこのプレゼンテーションの方式を学び、発表の際には補助教材、特に、パワーポイントを使用することをも学ぶ。				
2. カリキュラム上の位置づけ：この科目はECA (Speaking) やECA (Communication) に続いて、ECAの最も上級のオーラルトラックの科目である。				
3. 学びの目標：この科目は、学生主体であり、英語のプレゼンテーションに必要なスキルを向上させることを通して、英語の流暢さも向上させることを目的とする。いろいろなプレゼンテーションの技法を学習する機会を通し、会話やリスニングの能力を上達させることを目的としている。プレゼンテーション技法に触れることにより、オーラルと聞き取りのスキルを上達させることに焦点を当てる。また、それと同時に人の前で話す自信を得ることも目的としている。				
<b>評価方法</b>				
10% 授業への出席				
10% 授業外リソース				
60% プレゼンテーション演習				
20% 期末プレゼンテーション				
<b>教科書</b>				
Marion Grussendorf 『English for Presentations』 Oxford University Press				

ECA(Reading) I		春	秋	週1回	1単位
担当者: 鈴木 仁/森 容子/チェンパレン 暁子/メイス みよ子/印田 佐知子/島田 洋子/中川 英幸/川田 牧人					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1: 授業の概要 様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。					
2: カリキュラムの位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目または英語選択科目である。					
3: 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語読解力を養成する。					
<b>評価方法</b>					
課題(含む小テスト、レポート、発表、出席、態度)50%, 学期末テスト50%					
<b>教科書</b>					
授業の中で指示する					

ECA(Reading) I [Super A]		春	週1回	1単位
担当者: メイス みよ子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
This course is designed to improve your overall English skills. By reading interesting stories that made the news and discussing them, you will build up your reading comprehension, vocabulary and grammar skills. In this course you will also engage in extensive reading. There are a variety of readers in GP reading lab (1103) for you to check out and read at your own pace. You can also practice your English using a variety of resources on the Internet.				
<b>評価方法</b>				
Online Reading and book report (20%) Presentation (10%) Class handouts and Homework (20%) Quizzes (10%) Final Exam (40%)				
<b>教科書</b>				
Sandra Heyer 『Even More True Stories』ピアソン・ロングマン				

ECA(Reading) II		春	秋	週1回	1単位
担当者: 森 容子/チェンパレン 暁子/中村 香代子/島田 洋子					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1. 授業の概要 様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。					
2. カリキュラムの位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目又は英語選択科目となる。					
3. 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語読解力を養成する。					
<b>評価方法</b>					
課題(含む小テスト、レポート、発表、出席、態度)50%, 学期末テスト50%					
<b>教科書</b>					
授業の中で指示する					

ECA(Reading) II [Super A]		秋	週1回	1単位
担当者: メイス みよ子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
This course is designed to improve your overall English skills. By reading interesting stories that made the news and discussing them, you will build up your reading comprehension, vocabulary and grammar skills. In this course you will also engage in extensive reading. There are a variety of readers in GP reading lab (1103) for you to check out and read at your own pace. You can also practice your English using a variety of resources on the Internet.				
<b>評価方法</b>				
Presentation 10% Book report/ online reading 20 % Homework 10% quizzes 10% Final Exam 50%				
<b>教科書</b>				
Sandra Heyer 『Even More True Stories』ピアソン・ロングマン				

ECA(Speaking) I [Level A] <span style="float:right">春 秋 週2回 2単位</span>	
担当者 : K. ヒル/C. ギブソン/J. バーン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>1. 出席状況、授業態度・参加 30%</p> <p>2. 語彙の宿題・小テスト 20%</p> <p>3. スピーキングテスト (2回) 30%</p> <p>4. 期末試験 20%</p>	
<b>教科書</b>	
<p>Saslow &amp; Ascher 『Top Notch series』 Longman Pearson John &amp; Liz Soars 『American Headway series』 Oxford University Press</p>	

ECA(Speaking) I [Level B] <span style="float:right">春 秋 週2回 2単位</span>	
担当者 : K. ヒル/C. ギブソン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>1. 出席状況、授業態度・参加 30%</p> <p>2. 語彙の宿題・小テスト 20%</p> <p>3. スピーキングテスト (2回) 30%</p> <p>4. 期末試験 20%</p>	
<b>教科書</b>	
<p>Saslow &amp; Ascher 『Top Notch series』 Pearson Longman John and Liz Soars 『American Headway series』 Oxford University Press</p>	

ECA(Speaking) I [Level C/D] <span style="float:right">春 秋 週2回 2単位</span>	
担当者 : K. ヒル/C. カール/J. バーン/L. フラムソン/L. アーノルド	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>1. 出席状況、授業態度・参加 30%</p> <p>2. 語彙の宿題・小テスト 20%</p> <p>3. スピーキングテスト (2回) 30%</p> <p>4. 期末試験 20%</p>	
<b>教科書</b>	
<p>Saslow &amp; Ascher 『Top Notch series』 Pearson Longman John &amp; Liz Soars 『American Headway series』 Oxford University Press</p>	

ECA(Speaking) I [All] <span style="float:right">春 秋 週2回 2単位</span>	
担当者 : K. ヒル/J. バーン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>1. 出席状況、授業態度・参加 30%</p> <p>2. 語彙の宿題・小テスト 20%</p> <p>3. スピーキングテスト (2回) 30%</p> <p>4. 期末試験 20%</p>	
<b>教科書</b>	
<p>Saslow &amp; Ascher 『Top Notch series』 Pearson Longman John &amp; Liz Soars 『American Headway series』 Oxford University Press</p>	



ECA (Speaking) I [Super A]		春	週2回	2単位
担当者: M. サベット				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 この科目では受講生の考えや意見を効果的に英語で伝える能力を高める学習を行う。語学の授業に置いては出席が重要であるため、この科目では最低80%の出席が必要条件である。外国語能力上達のためには100%の出席でも十分ではないため、自習は積極的に行うことを望む。				
2. カリキュラム上の位置づけ この科目はSLEPプレースメントテストのTOEFL換算スコア400点以上を取得した1年生を対象としている。この基準を満たす1年生はECA (Speaking) I の代わりにこの授業を履修する。				
3. 学びの意義と目標 この科目は高校の英語授業で学んだ英語コミュニケーションスキルをもとに進める。国際コミュニケーションのための英語の話し方、聞き取り、書き方スキルを上達させることを強調する。学生が自信をもって、色々なコミュニケーション状況で参加できるようにすることを旨とする。				
<b>評価方法</b>				
出席 30%、宿題 20%、口頭試験 20%、期末試験 30%				
<b>教科書</b>				
Saslow and Ascher 『Summit 1』 Pearson Longman				

ECA (Speaking) II [Level A]		秋	週2回	2単位
担当者: C. ギブソン/J. バーン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーションティブ・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。				
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目				
3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。				
<b>評価方法</b>				
1. 出席状況、授業態度・参加 30% 2. 語彙の宿題・小テスト 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 20%				
<b>教科書</b>				
Saslow, Ascher 『Top Notch series』 Pearson Longman John and Liz Soars 『American Headway series』 Oxford University Press				

ECA (Speaking) II [Level B]		秋	週2回	2単位
担当者: K. ヒル				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーションティブ・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。				
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目				
3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。				
<b>評価方法</b>				
1. 出席状況、授業態度・参加 30% 2. 語彙の宿題・小テスト 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 20%				
<b>教科書</b>				
Saslow & Ascher 『Top Notch series』 Pearson Longman John & Liz Soars 『American Headway series』 Oxford University Press				

ECA (Speaking) II [Level C/D]		秋	週2回	2単位
担当者: C. カール/J. バーン/L. フラムソン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーションティブ・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。				
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目				
3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。				
<b>評価方法</b>				
1. 出席状況、授業態度・参加 30% 2. 語彙の宿題・小テスト 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 20%				
<b>教科書</b>				
Saslow & Ascher 『Top Notch series』 Pearson Longman John & Liz Soars 『American Headway series』 Oxford University Press				

A  
I  
Z

ECA (Speaking) II [A11]		春	秋	週2回	2単位
担当者: K. ヒル/J. パーン					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。					
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目					
3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。					
<b>評価方法</b>					
1. 出席状況、授業態度・参加 30%					
2. 語彙の宿題・小テスト 20%					
3. スピーキングテスト (2回) 30%					
4. 期末試験 20%					
<b>教科書</b>					
Saslow & Ascher 『Top Notch series』 Pearson Longman John & Liz Soars 『American Headway series』 Oxford University Press					

ECA (Speaking) II [Super A]		秋	週2回	2単位
担当者: M. サベット				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 ECA (Super A) I の授業で学んだ英語コミュニケーションスキルをもとに進めるつもりである。国際コミュニケーションのための英語の話しかた、聞き取り、書き方スキルを上達させることを強調する。小グループ、クラス全体で行うタスクベースや問題を解決する学習方法で進める。本来外国語能力上達のためには出席が100%でも十分とはいえず、自習をすることは必要条件である。宿題や聖学院大学のECAホームページを通しての追加練習を必ず行うこと。				
2. カリキュラム上の位置づけ この科目はECA (Super A) I の単位を取得した1年生を対象としている。				
3. 学びの意義と目標 American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL) ガイドラインによる口頭英語能力レベルが(中級の中)レベルまで上達することがこの科目の総合的な目標である。このレベルでは学生が自信を持って、色々なコミュニケーション状況で参加できるようになる。口頭テストは合計2回、筆記期末試験は行う。				
<b>評価方法</b>				
出席 30%、宿題 20%、口頭試験 20%、期末試験 30%				
<b>教科書</b>				
Saslow and Ascher 『Summit 1』 Pearson Longman				

ECA (Survival English)		春	秋	週2回	2単位
担当者: K. ヒル/C. カール/C. ギブソン/J. パーン					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1. 内容 簡単な英語、実践的な英語を理解したり伝えたりしなければならないさまざまなシチュエーションを体験する。また、コミュニケーションをよりなめらかにするために、特定の英語圏の国の文化と習慣について学ぶ。学期の終了時には、旅行先や滞在先の国の文化についての理解を深めていると同時に、メニューの見方や注文の仕方、病気や症状の用語や病院での説明の仕方、道の聞き方、値段の聞き方や買い物の仕方など、さまざまな状況でサバイバルすることができる語学力を得ているだろう。					
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目					
3. 学びの意義と目標 英語圏への短期間の旅行や滞在に必要なスピーキングとリスニングのスキルを高めることを目的とする。					
<b>評価方法</b>					
1. 出席状況、授業への参加 50%					
2. 課題の成績、20%					
3. テスト結果 30%					
<b>教科書</b>					
Angela Buckingham and Norman Whitney 『Passport to New Places』 Oxford University Press					

ECA (Test English) A [Level A]		秋	週1回	1単位
担当者: チェンバレン 暁子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
英語コミュニケーション能力試験の基礎固めとして、英文法を基礎から徹底的に復習する。また、日本人にとって特に苦手な文法項目を詳しく丁寧に解説し、数多くの練習問題を行うことで、基本的な使い方を身につけ、英語コミュニケーション能力の向上を計る。試験の形式に慣れるよう、TOEIC練習問題やリスニングの練習も授業の中で随時行う。				
<b>評価方法</b>				
出席 20%、小テスト40%、期末試験 40%				
<b>教科書</b>				
Michael Swan & Catherine Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートA:動詞と時制』旺文社				

ECA (Test English) A [Level A] <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>	
担当者：チェンバレン 暁子/メイス みよ子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 この授業では基礎文法の習得を中心に授業を進めて行く。英文法をしっかりとマスターしたいという学生に是非受講して欲しい。テキストだけでなく、GPリーディングラボ所蔵の資格テスト対策教材を利用し、自分のレベルに応じた文法問題やリーディング問題、リスニング練習も行なうよう、指導していく。英語資格テスト受験を目指している学生の基礎を養うための講座であるので、TOEICやTOEFLの練習問題も行う。基礎力だけでなく、応用力もつけられるよう指導して行く。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の英語選択科目で、TOEICやTOEFLの授業を効果的に履修できるための準備講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 資格英語で高得点をとれるよう、基礎文法力をしっかりと身につける事を目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点 (50点) (小テスト、宿題、授業参加を含む) 試験 (50点)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する Michael Swan, Catherine Walter 『オックスフォード実用英文法、パートA:動詞と時制』旺文社	

ECA (Test English) A [Level B] <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>	
担当者：島田 洋子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 この授業では文法の基本事項を学習していく。英語は好きだが文法が苦手な学生や、文法事項を再学習したい学生には、特に有意義な授業になる。また英語資格テストの受験を目指している学生の基礎を養うための講座でもあるので、TOEICやTOEFLのスコアアップにも役立つ。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の英語選択科目で、Reading, Speaking, さらににはTOEICやTOEFLの授業を効果的に履修するための準備講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 資格英語試験などでの点数の向上、英語の読解力、コミュニケーション能力の上達を目指し基礎文法力をしっかりと身につけることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点 (50%) (小テスト、宿題、授業参加を含む) 試験 (50%)	
<b>教科書</b>	
Michael Swan, Catherine Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートA:動詞と時制』旺文社	

ECA (Test English) B [Level A] <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>	
担当者：チェンバレン 暁子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
英語コミュニケーション能力試験の基礎固めとして、英文法を基礎から徹底的に復習する。また、日本人にとって特に苦手な文法項目を詳しく丁寧に解説し、数多くの練習問題を行うことで、基本的な使い方を身につけ、英語コミュニケーション能力の向上を計る。試験の形式に慣れるよう、TOEIC練習問題やリスニングの練習も授業の中で随時行う。	
<b>評価方法</b>	
出席 20%、小テスト 40%、試験 40%	
<b>教科書</b>	
Michael Swan & Catherine Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートB:修飾と接続』旺文社	

ECA (Test English) B [Level A] <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>	
担当者：チェンバレン 暁子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
英語コミュニケーション能力試験の基礎固めとして、英文法を基礎から徹底的に復習する。また、日本人にとって特に苦手な文法項目を詳しく丁寧に解説し、数多くの練習問題を行うことで、基本的な使い方を身につけ、英語コミュニケーション能力の向上を計る。試験の形式に慣れるよう、TOEIC練習問題やリスニングの練習も授業の中で随時行う。	
<b>評価方法</b>	
出席 20%、小テスト 40%、期末試験 40%	
<b>教科書</b>	
Michael Swan & Catherine Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートB:修飾と接続』旺文社	

A  
I  
Z

ECA (Test English) B [Level B] 春 秋 週1回 1単位	
担当者: 島田 洋子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この授業ではTest English Aで学習しなかった文法基本事項を学習していく。Test English A を履修してさらなる文法力の向上を目指す学生、英語は好きだが文法が苦手な学生、文法事項を再学習したい学生には、特に有意義な授業になる。また英語資格テストの受験を目指している学生の基礎を養うための講座でもあるので、TOEICやTOEFLのスコアアップにも役立つ。	
2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の英語選択科目で、Reading、Speaking、さらにはTOEICやTOEFLの授業を効果的に履修するための準備講座である。	
3. 学びの意義と目標 資格英語試験などでの点数の向上、英語の読解力、コミュニケーション能力の上達を目指し基礎文法力をしっかりと身につけることを目標とする。	
<b>評価方法</b> 平常点 (50%) (小テスト、宿題、授業参加を含む) 試験 (50%)	
<b>教科書</b> Michael Swan, Catherine Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートB:修飾と接続』 旺文社	

Intercultural Communication between Japan & the U.S.A. A 春 週2回 4単位	
担当者: E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. Content - This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries.	
2. Role in the Curriculum - The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate.	
3. Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.	
<b>評価方法</b> Grades will be based upon attendance (15%), reading assignments (20%), a term paper (35%), and two examinations (15% each = 30%).	
<b>教科書</b> Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th edition)』 SAGE Publications, Inc.	

Intercultural Communication between Japan & the U.S.A. B 秋 週2回 4単位	
担当者: E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. Content - This course reviews the concepts of intercultural communication covered during the first semester, specifically those that apply directly to Japan and America. The cultural differences between these two countries are highlighted and the implications for intercultural communication delineated, with particular emphasis placed upon the development of intercultural competence.	
2. Role in the Curriculum - The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate.	
3. Learning Objective - The fundamental objectives are to further deepen students' awareness and understanding of the profound influence that culture has upon communication between Japanese and Americans and to learn and apply the specific theories of communication that are most apropos.	
<b>評価方法</b> Grades will be based upon attendance (15%), reading assignments (20%), a term paper (35%), and two examinations (15% each = 30%).	
<b>教科書</b> Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th edition)』 SAGE Publications, Inc.	

ITパスポート講座 春 秋 週2回 4単位	
担当者: 国分 道雄	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 2009年度から情報処理技術者試験に新設された国家試験「ITパスポート試験」で求められる総合的な知識を幅広く学ぶ。試験の内容は、テクノロジー系(IT技術)・マネジメント系(IT管理)・ストラテジ系(経営全般)の3分野に分かれている。外部講師を招き、講義を行う。	
〈位置づけ〉 基礎科目群の中の選択科目であり、「コンピュータ基礎A, B」や「情報リテラシー」を修得した学生が、さらに幅広い知識を身につけるための科目である。	
〈学びの意義と目標〉 高度情報化された現代社会においては、これからの社会で働く全ての人に Information Technology を利用することが求められている。ITを十分に活用するためには、事務系・技術系いずれの職種でも、ITと経営全般に関する総合知識が必要になる。「ITパスポート試験」に合格できる知識を学ぶことで、これからの職業人として必要なITスキルを身につけてもらいたい。	
<b>評価方法</b> 期末試験(60%)、課題提出(20%)、出席(20%)	
<b>教科書</b> インフォテック・サーブ編『ここから始めるITパスポート』インフォテック・サーブ インフォテック・サーブ編『ITパスポート試験問題集』インフォテック・サーブ	

Japanese view of Nature & Landscape Architecture		秋	週1回	2単位
担当者: 村上 公久				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>Gardens are a reflection of people's view of nature and view of life. When we appreciate gardens, we may come close to the view of nature or the sense of values behind the gardens layout derived from those values.</p> <p>Furthermore, we may learn religious perspective from certain types of gardens as in the case of the asymmetrical rock gardens of Zen Buddhism in Japan, which are quite different from the symmetrical flower gardens of the West.</p> <p>Gardens well represent the relationship between man and nature. We may learn a variety of views of nature among the racial, ethnic, religious groups from the study of the gardens of the world. Then we may discover a new perspective for the comparative study of those groups through garden study. And we may approach to the better and more profound understanding of Japan through the study of her unique gardens.</p>				
<b>評価方法</b>				
Graded mainly by class contribution through discussion, and then by reading assignments, performance, term papers (critical article response paper), and an end-of semester final closed-book exam. No midterm exam.				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

Language in Society		春	週2回	4単位
担当者: D. パーガー				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. Content: Within a sociolinguistic framework, three broad areas of language use in society will be covered: ways in which personal and group identity are reflected in language use, such as accent, dialect, and multilingualism, and the negative effects of linguistic prejudice; ways in which human relations are expressed through honorific and polite language; and how non-discriminatory language reform illustrates the relationship between language change and social change.</p> <p>2. Place in the Curriculum: This course is for students from sister colleges and Seigakuin University students who have a high enough English ability to participate in the class. All students must be able to read class materials in English, understand university-level English lectures with minimal explanation in Japanese, and participate actively in classroom discussions in English.</p> <p>3. Purpose and Goals: The purpose of this course is to help students gain a better understanding of how language is used in society.</p>				
<b>評価方法</b>				
10% attendance 15% class participation 20% quizzes 25% term paper 30% final exam				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

Living & Studying Abroad		春	週2回	2単位
担当者: M. サベット				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>この科目は、海外留学をするにあたり社会的・学術的に向き合う問題を紹介する。アメリカの社会規範の理解、人との適切な対応の仕方、大学環境への順応の仕方、そして良い成績の取り方などを学ぶ。授業トピック: アメリカの規範と文化理解 (家族、宗教、政治、スポーツ、エンターテイメント、食など); 大学生活を理解し慣れ親しむ (キャンパスを知る、図書館やその他の大学の施設を利用する、学問上の目的を設定する、良い勉強の習慣をつける、授業の履修必要条件と評価方法を把握する、交流の仕方を学ぶ、危険を避ける)</p> <p>Living and Studying Abroad</p> <p>The purpose of this course is to introduce students to the type of social and academic challenges that they may face when they study abroad. Students will learn how to understand the social norms in the U.S., how to interact with people appropriately, how to survive in a university setting, and how to succeed academically.</p>				
<b>評価方法</b>				
1. Attendance and participation 40% 2. Homework 30% 3. Quizzes and Final exam 30%				
<b>教科書</b>				
Peg Sarosy and Kathy Sherak 『Lecture Ready 1』 (Oxford University Press)				

NPO・NGO論 (国際協力)		秋	週2回	4単位
担当者: 林 明仁				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容</p> <p>NGOとは個人が社会と関係を構築する一つの手段であるという視点から、NGOに関わる人びとが社会に対してどのような問題意識を持ち、どのような変化を求めているのかについて講義を行なう。その際に、特に日本という文脈の中でNGOが置かれている現状や課題、存在意義について議論や考察を深める。授業は、講義だけではなく、映像やグループディスカッション、ワークショップ、受講者のプレゼンテーションなども活用する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置付け</p> <p>専門科目であるが、概論・入門的な位置付けである。特に履修しておく必要のある科目はない。</p> <p>3. 学びの目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NGOが活動の対象とする世界的な課題について理解することで、自らの関心領域を拡張する。</li> <li>・NGOと社会の関係を理解し、自らの周りにある社会的問題の発見を通して、NGO活動へ参加する機会を見出す。</li> </ul>				
<b>評価方法</b>				
出席および毎回の授業で提出するコメントから判断する習熟度合 (50%)、学期中のレポートおよび試験 (50%)。授業への参加が活発であれば加点を行なう。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

A  
|  
Z

NPO・NGO論(非営利組織)	春	週2回	4単位
担当者: 大高 研道			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容 福祉社会の到来にともない、地域で活動を展開する市民組織の役割が国際的に注目されている。わが国でも1995年の阪神・淡路大震災以降、NPOの役割が広く一般に認知され、1998年には、その支援を目的とした特定非営利活動促進法（NPO法）が制定された。本講義では、非営利活動をめぐる国際的動向やわが国のNPOの実態について検討するとともに、NPOが注目されるようになった現代的背景や構造的要因にも目をむけて、その現在と未来についてともに考えたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ NPO入門の位置づけであると同時にコミュニティ政策学科の共通専門科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 現代社会におけるNPOの全体像を把握することが主要な目的となる。福祉・教育・文化・環境・まちづくり等、社会的・経済的領域を網羅したNPO活動は20世紀末から21世紀にかけてもっとも成長した分野の一つと言われており、その動向を理解しておくことは、とりわけ地域社会を基盤とした労働や生活の未来を構想する上でも有益であろう。</p>			
<b>評価方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験80%+レポート20%</li> <li>・出席点について…毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。</li> </ul>			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

Pop Culture	春	週2回	4単位
担当者: K. O. アンダスン			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容: この授業は、ビートルズの音楽・時代、そして音楽・ファッション・社会観念など大衆文化に与えた影響力を学ぶ。受講生それぞれの音楽の嗜好や好きな曲についても議論をする。実際に質問を考え作成し、ジャーナリストとしてミュージシャンにインタビューする練習、またミュージシャンとしてそのインタビューに答える練習なども行う。授業の中で3本のビデオを鑑賞し、それらを基に宿題（レポート）提出や小テストを頻繁に行い、期末試験も実施する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ: 現代の英国民衆文化を学ぶ。</p> <p>3. 学びの意義と目標: さまざまな文化や世界の音楽など、外に向かつての知識を広げていく。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>10% 出席</p> <p>30% 小テスト結果</p> <p>30% 宿題（レポート）提出結果</p> <p>30% 期末試験結果</p>			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

Special Lecture Series A	春	週1回	2単位
担当者: E. D. オズバーン			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. Content - This is a flexible course, with a variety of topics related to Japan and Japanese culture being taught. The course is primarily a survey of key aspects of Japanese history, anthropology, religion, and culture.</p> <p>2. Role in the Curriculum - The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate.</p> <p>3. Learning Objective - The overall objective is to provide students with a broad understanding of the richness of studies on Japan in order to whet their appetite for further in-depth investigation of subjects of particular interest to the individual.</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>Grades will be based upon attendance &amp; participation (15%), reading assignments (20%), a term paper (35%), and two examinations (15% each = 30%).</p>			
<b>教科書</b>			
<p>プリントを配布する</p> <p>Yoshio Sugimoto, ed. 『The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture』 Cambridge University Press</p>			

Speech & Debate A	春	週2回	4単位									
担当者: M. サベット												
<b>講義の目標及び概要</b>												
<p>1. 内容 英語のスピーキング・スキルに重きを置く。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標: (1) (全般) 聴衆の前でのスピーキング・スキルを上達させる。 (2) (言語) 英語で自分の考えを表現できる能力を上達させる。 (3) (文化) 英語と日本語におけるスピーキングの違いの理解を深める。</p>												
<b>評価方法</b>												
<table border="0"> <tr> <td>20%</td> <td>出席</td> <td>Attendance</td> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>スピーチの実践</td> <td>Practice Speeches</td> </tr> <tr> <td>20%</td> <td>最終スピーチ</td> <td>Final Speech</td> </tr> </table>				20%	出席	Attendance	60%	スピーチの実践	Practice Speeches	20%	最終スピーチ	Final Speech
20%	出席	Attendance										
60%	スピーチの実践	Practice Speeches										
20%	最終スピーチ	Final Speech										
<b>教科書</b>												
プリントを配布する												

Speech & Debate B		秋	週2回	4単位
担当者：M. サベット				
<b>講義の目標及び概要</b>				
Speech & Debate B will focus on debating skills in English. The goals of the course are: Speech and Debate Bは、英語のディベート・スキルに重きを置く。このコースの目標： 1. (general) to improve general debating skills; that is, effectively arguing for or against a proposition; 2. (language) to improve your ability to express your opinions in English; 3. (culture) to gain a better understanding of the importance of the exchange of ideas and opinions in a free society. 1. (全般) 効果的な議論および主張への反論をするためのディベート・スキルを上達させる。 2. (言語) 英語で自分の意見を主張できる能力を上達させる。 3. (文化) 自由社会において自分の考えおよび見解を意見交換することが、いかに重要であるかという理解を深める。				
<b>評価方法</b>				
20%	出席	Attendance		
60%	ディベートの実践	Practice Debates		
20%	最終ディベート	Final Debate		
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

TOEFL C		春	週2回	2単位
担当者：中村 香代子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1 内容 TOEFL iBT (ITP) Testの対策講座です。難易度が高くなったiBT Testで少しでも得点を伸ばすために、Listening・Reading・Speaking・Writingの各分野の特徴をつかみ、中でも分量の多いReading・Listeningセクションに重点を置き、正確に解答するための練習を重ねます。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。 2、カリキュラム上の位置づけ 将来留学や海外大学編入を考えている人の為のクラスです。受講者にはTOEFL-ITPの受験が求められます。 3、学びの意義と目標 難易度の高いTOEFL iBTに対応できるスピードと内容理解力アップを目指します。また総合的な英語力向上も目指します。				
<b>評価方法</b>				
出席(20%)、授業参加(20%)、練習模試結果(20%)、定期試験(40%)の結果を総合的に評価します。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

TOEFL D		秋	週2回	2単位
担当者：中村 香代子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1 内容 TOEFL iBT (ITP) Testの対策講座です。難易度が高くなったiBT Testで少しでも得点を伸ばすために、Listening・Reading・Speaking・Writingの各分野の特徴をつかみ、中でも分量の多いReading・Listeningセクションに重点を置き、正確に解答するための練習を重ねます。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。 2、カリキュラム上の位置づけ 将来留学や海外大学編入を考えている人の為のクラスです。受講者にはTOEFL-ITPの受験が求められます。 3、学びの意義と目標 難易度の高いTOEFL iBTに対応できるスピードと内容理解力アップを目指します。また総合的な英語力向上も目指します。				
<b>評価方法</b>				
出席(20%)、授業参加(20%)、練習模試結果(20%)、定期試験(40%)の結果を総合的に評価します。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

TOEIC C		春	週2回	2単位
担当者：中村 香代子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い判断力が要求されますが、パターンに習熟し不得意分野を訓練することで得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、e-learningも用いて実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねていきます。またテストに出やすい語彙を多く含んだリスニング・リーディング練習にも多く挑戦します。 2. カリキュラム上の位置づけ TOEIC Testに挑戦してみたい人のための、専門科目コースです。受講者にはTOEIC-IPの受験が求められます。 3. 学びの意義と目標 TOEICテストの特徴をつかみ、点数向上を目指します。またテスト準備にとどまらず、将来役立つ実践的で総合的なリスニング・リーディング力の習得も目指します。				
<b>評価方法</b>				
出席(20%)、授業態度(10%)、e-learningの取り組み(20%)、単熟語クイズ(20%)、定期試験(30%)の結果を総合的に評価します。				
<b>教科書</b>				
石井隆之、山口修 他『Total Strategy for the TOEIC Test』成美堂				

A  
I  
Z

担当者：中村 香代子

**講義の目標及び概要**

## 1. 内容

TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い判断力が要求されますが、パターンに習熟し不得意分野を訓練することで得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、e-learningも用いて実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねていきます。またテストに出やすい語彙を多く含んだリスニング・リーディング練習にも多く挑戦します。

## 2. カリキュラム上の位置づけ

TOEIC Testに挑戦してみたい人のための、専門科目コースです。受講者にはTOEIC-IPの受験が求められます。

## 3. 学びの意義と目標

TOEICテストの特徴をつかみ、点数向上を目指します。またテスト準備にとどまらず、将来役立つ実践的で総合的なリスニング・リーディング力の習得も目指します。

**評価方法**

出席(20%)、授業態度(10%)、e-learningの取り組み(20%)、単熟語クイズ(20%)、定期試験(30%)の結果を総合的に評価します。

**教科書**

石井隆之、山口修 他『Complete Tactics for the TOEIC Test』成美堂